



職員自身もいつ自分に順番が回ってくるかが分からない、ドキドキのコーナー。職員も知らないあの職員の内側をのぞけると、職員間でひそかな人気です♪

「最近気になること」

(横田職員からのリレーテーマ)

このテーマを頂いた時、すごく困りました。何故なら私、人一倍飽き性で好奇心が旺盛だから。ハマったものは数知れず、飽きたものも数知れず。そんな私が最近気になることを考えぬいて、浮かんだのは「ラーメン」でした。

実は幼い頃からラーメンが嫌い、克服して美味しいと思えるようになったのはほんの5,6年前のこと。それもごく一部のお店の味噌と醤油ラーメンしかまだ食べることが出来ない、塩ラーメンは中でも未知な食べ物です。

今年は色々なラーメンに挑戦したいと思いますので、皆様おすすめなお店がありましたら浅野まで教えてください♡…と記事を書きながら頭のなかでは既に違うことに気が行っている私でした。

にこ 浅野弥生

「初恋の話」 (渡邊(幸)職員からのリレーテーマ)

「初恋」…このお題が回ってきた時に、何やら甘酸っぱい物質が自分の脳内を駆け巡った。その日の夜の入浴中、改めて自分の初恋について振り返る。

振り返り思ったのがまず、「恋」とはどこからが「恋」なのか? 「あの娘、かわいいな」と思った事柄が恋なのか? 「あの娘のことが気になった」時点で恋なのか? それらを「恋」と定義付けると、自分自身は街に出る度に「恋」をする「年中色男」だということになってしまう。それでは今まで築き上げてきた笹川(晴)の爽やかなイメージがこの文面一つで粉微塵に吹き飛んでしまう…。長い自問自答と入浴の末、導き出した結果として「初めて四六時中、相手のことを想ってしまった女性」との事柄を、私自身の「初恋」と綴らせて頂きたい。

時は200X年。思春期、青春真っ盛り、中学二年の笹川(晴)。年度初めのクラス替え。この頃、まだ初恋を知らぬ笹川。部活や友人との絡みに日々を費やしていた。ある日、同じクラス内の一人の女子生徒が気になる。愛らしく、笑うと太陽のように眩しい笑顔を振り撒く、少し小柄な女の子。…と、ここまで書いてどうやら文字数の制限が。このコラムが好評のようならつづきを書かせて頂くことにしよう。

にこ 笹川晴基

「思い出の場所」

(笹川(直)職員からのリレーテーマ)

私の思い出の場所は、数年前に行った東京スカイツリーと浅草、日光東照宮です。それは結婚20周年で、新婚旅行以来、夫婦2人で初めて出掛けた場所です。子どもたちも大きくなり、少しずつ2人の時間が出来たので、行こうという事になりました。その日は、天気が良く、スカイツリーからの眺めはとても良かったです。浅草はいろんなお店を見ながら、食べ歩きしたのも初めてでした。日光東照宮ではおみくじを引き、大吉でした。天候にも恵まれて、とてもいい思い出の場所になりました。あと数年で、銀婚式です。また、旅行を計画して楽しい思い出の場所を、作りたいと思います。今から、とても楽しみです。



ららん 古川美智子



浅野職員からのリレーテーマは「もしも一億円あったら…」、笹川(晴)職員からのリレーテーマは「今年の抱負(野望)」、古川職員からのリレーテーマは「今はまっていること」です。次回もお楽しみに!



お知らせ

以下の通り職員の人事異動がありましたのでお知らせ致します。

入職 1月21日付

今井 道子
祖山 恵
三門 留美

異動

北島 直樹(サンクスレルヒの森より)

~これからよろしくお祈りします~

異動 1月21日付

池田 聖(サンクス米山へ)

いとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日: 2018年2月

2月。雪が積もり吹雪の日も多く、寒さが厳しい毎日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の冬は台風や気温低下の影響で野菜の高騰が問題となっており、ご家庭の献立にも支障をきたしているようです…。今の時期はインフルエンザも流行する時期ですので、体調管理にもお気をつけください。それでは2月号も楽しんでご覧ください*



冬の思い出フォトアルバム

今回はりとるらいふの冬の思い出をお届けいたします! 冬休み期間をはさんでいることもあり、楽しいイベントが盛りだくさん。素敵な笑顔が花開いていますよ(´o`)

【きら】



祝! 成人式 新成人のフレッシュな面々



緊張の成人証書授与式。
新成人の皆様おめでとうございます!

土曜開所にて、ロールキャベツ調理中。一方そのころ・・・



ケーキも作っていました! 力作です。



寒さに負けず体育館にて、
今年のスポーツ始め。

【5らん】

中高等部主催
「2017年今年も頑張ったね会」
～借り人・借り物競争～



中高等部主催
「新年お楽しみ会インタビュー」
～お正月は何をして
過ごしましたか？～



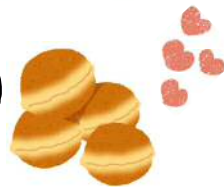
息を合わせて
「いっせーのーで！」
お菓子作り
～ミルクレープの
クレープ生地作り～



お菓子作り！
きれいに混ぜて何が
出来るかな♪



鈴カステラ
かんせーい！
上手に焼けた
よ^^



【にこ】

今年初めてのイベントは初詣。春日山
神社で新年のご祈願をしました。お作
法に則ってお祈りもできました。



12月28日に大掃除をしまし
た☆高等部のお兄さんを中心
に、細かいところまで丁寧に
行ってくれました。



初詣の後はおしるこ作り！
あんこたっぷりのおしるこ、
ポップコーンをみんなで
食べました♡



1月15日～19日まで、新年
の抱負をコラージュ写真で表
現しました☆将来の夢や自分
のあこがれの姿等、皆の世界
が輝いていました。



「みんなでいきる」がしたいこと、目指すこと、そしてこれから

社会福祉法人みんなでいきる 法人本部 小林克大

平成30年の幕開けからもう1ヶ月半が経過し、時間の経過が年々早くなっていることを実感しています。私が所属している法人本部を中心とし来年度に向けての「みんなでいきる」の事業方針策定が進んでいます。

平成30年度は私たちの事業では節目の年となる3年に1回の報酬改定がおこなわれます。国は、サービス報酬という名目で将来の社会保障等のあり方、事業所にはこのようにしてほしいとのメッセージを織り込んでいきます。今回の改定にともなう大きな柱のひとつとして「共生型サービス」が新設される予定です。「共生型サービス」とは、障害福祉サービス、介護保険サービスのどちらかの基準を満たせば、両方の指定を受けられるという制度となり、例えば生活介護と高齢者デイサービスを一緒に空間でおこなえるというようなものです。

現在、障害福祉サービスを利用している障害者は、介護保険の被保険者になったら、介護保険サービスを優先的に利用することとされ、状態は何も変わらなくても年齢で分断され、慣れている障害福祉サービスから介護保険のサービスに切り替えなくてはならないという制度の弊害が存在しておりました。その弊害を解消するためのメッセージとしての新しいサービスができることとなります。

「共生型サービス」で思い出すエピソードがあります。十数年前なのですが、私が前職の会計事務所に勤務しているとき、あるクライアントの社長よりおもしろい取組をしている福祉施設があるので一回見に行ってみたらどうだとの話があり、その施設に連絡したところ視察の受入れはしておらず、ボランティアであれば受け入れるとの返答があり、ボランティアとして訪問いたしました。そこには少し大きめの民家があり、玄関前に車いす用スロープはあったのですが福祉施設らしいところはその程度でそれ以外は一般の家としか見えない建物でした。中に入るとおばあちゃんがイスに座りお茶を飲んでいたり、奥の座敷では医療器具が繋がれたおじいちゃんが布団で寝ていたり一見は民家をつかったサービスかなと思ったのですが、イスに座っているおばあちゃんの横にはベビーシートに座った赤ちゃんがおり、その赤ちゃんをおばあちゃんがあやしていたり、赤ちゃんのママはボランティアスタッフとして台所で昼食を作り、障害者が配膳をしている姿がありました。訪問した施設は、隣県の富山県にあります「このゆびとーまれ」という名前で、代表の惣万佳代子さんが病院時代の同僚看護師と3名で立ち上げた施設でした。惣万さんなどが進めた、必要な時に年寄りも子供も障害者も誰でも利用できる施設は富山型デイサービスとし、制度の垣根を越えたサービスを展開してまいりました。今回の

「共生型サービス」のモデルのひとつともなっております。

「このゆびとーまれ」にボランティアに行った時に2つの出来事が思い出深く印象に残っております。ひとつは、ある高齢者と話をしていたのですが、その方は過去に空港の管制官として働いていたのですが、常にその写真を持ってきており来る人来る人に当時の話をしてくれます。その横で障害者の女の子がいつも聞いているのか一緒に説明をしてくれました。もう一つは、惣万さんが最後に話をしてくれたのですが、奥の座敷で寝ているおじいちゃんは病院にいと多分じきに亡くなってしまふ。意識は無いがここにいることにより子供や色々な人の声を聞くことにより生きている、昔の家庭はこんな感じだったということでした。人と人が接する福祉事業のひとつの形、目指すべき形かなと当時感じる出来事でした。

みんなでいきるは、旧りとるらいふと旧桃林福祉会が平成26年4月に合併してできた法人です。当時の片桐理事長は制度の狭間で利用者が振り回されることが無いよう、知っている顔が一生寄り添える環境を作りたく合併を決意しました。私たちの法人の合併する時の想いを、ちびっこからお年寄り、障害があるなしに関わらず自分が自分らしく生きていける社会の実現を目指す姿を、みんなでいきるという名前に込めました。

今回の「共生型サービス」は私たち法人の合併に及んだ決意そのものを具現化するサービスとなります。

みんなでいきるでは、4月1日より総合相談センター（正式名称：みんなでいきる相談センター）を開業いたします。総合相談センターとは、地域包括支援センター（4月より上越市より受託）や居宅介護支援事業所などの高齢分野での相談機能、障害相談支援事業、安心コールセンターなど既存の事業を一カ所に集約することにより、地域の中での困りごと、家庭の中での困りごとを多方面のプロフェッショナルと一緒に頭を付け合せて解決する事業所です。今までは、高齢分野は高齢・障害分野は障害と縦割りになりましたが、家庭の問題は高齢、障害、貧困、子どもなど多岐にわたり、かつ複雑に絡みあっており、一面だけのアプローチでは片手落ちの対応になってしまいます。私たちが目指す総合相談センターも「共生型サービス」のひとつの形ではないかと考えます。

これからのみんなでいきるは、高齢・障害・児童の更なる融合（共生）を目指し、制度の枠にとらわれず、地域の人が生き生きと暮らせる社会、みんなでいきる社会の実現を進めます。私たちは常に新しいことにも積極的にチャレンジします。地域の人に喜ばれ、利用者にも喜ばれ、仕事をしている職員も充実感・やりがい喜びを感じられる法人を目指し、みんなでいきるは平成30年度に突入いたします。